池禅尼（榛葉竹庭）

凱樂　聲中　獨り　怡しまず
恩を　嫡嗣に　乞うて　孤兒を　救う
言う莫れ　虎を　養って　凶禍を　遺すと
一族の　興亡　自ら　時　有り

凱樂聲中獨不怡　乞恩嫡嗣救孤兒
莫言養虎遺凶禍　一族興亡自有時

解説　少納言藤原宗兼の女である池禅尼は、平清盛の父忠盛の後妻となった。忠盛の死後仏門に入り、六波羅の池殿に住んだところから池禅尼と呼ばれた。平治の乱で捕えられた源頼朝が、亡き家盛に似ているところから、禅尼は清盛に助命を請い、その結果、頼朝は一命を助けられて伊豆の蛭ケ小島に流された。尚、二十年後挙兵した頼朝は、平家を破って鎌倉に幕府を開いたのである。

語釈　※凱欒＝凱旋時に奏する音曲。※養虎＝除くべき者を存して、後日禍にかかるたとえ。　※凶禍＝わざわい。

通釈　にぎやかに凱旋祝賀の楽器が奏でられている中にあって、禅尼の心は晴れず、清盛に懇願して、孤児となった頼朝の一命を救った。この行為は、虎を養って後日に禍根を残したものだ、などと言い給うな。平家一門の興亡は、総て天時によるものである。